

井原市公共交通会議（第3回） 議事概要

と き 平成22年12月7日（火）

13:30から15:10

ところ 井原市役所5階501・502会議室

1. 開 会

2. 協 議

1) 新会長の選出について

会長：三宅生一委員（井原市副市長）

2) 井原市地域公共交通総合連携計画策定調査業務の中間報告等について

・事務局（福山コンサルタントから資料説明）

（事務局）人々が移動することに対し、鉄道やバスといった公共交通は、それぞれ単独では使えず、乗り継ぎも含めて、連携していかなければならない。

そのため、今回の連携計画で基本方針を定め、その後、乗り継ぎの負担をどうするか、ルートをどうするか、運行手法をどうするかといった細かい点を詰めていきたい。そして、井原市に会う方法を洗い出し、フォローアップしていくことになる。

（委員）アンケートの回収率は32.1%とのことだが、もっと関心があると思っていた。

（委員）アンケートの内容が細かすぎたのではないか。

（事務局）工夫はしてみたが、週単位で行動を調査する必要があり、このような内容になった。

（委員）前回、橋本委員も仰っていたことだが、簡単なアンケートでは、答えが誘導される可能性もあり、住民の生の意見が出てこない。

（三宅会長）アンケートが難しい分、回収率が落ちた可能性はある。乗降調査では、利用者の意見を聞いているが、十分に聞いたのか。

（事務局）乗降調査は、利用人数の把握をメインとしており、空いた時間で利用者の意見を聞いたもので、他に利用者の意見を聞くには、一同を集めて意見を聞く方法ある。

（委員）地元の代表者などに集ってもらい、話し合いの場で意見を言ってもらった方がよくわかるし、よいのではないか。

（三宅会長）集ってもらえば精度はあがるだろうが、意見の傾向が偏る場合もある。

（委員）実際に利用するのは、10%しかいない。運行すれば経費の問題も出てくる。今後、どのようにすれば、一人でも多くの人が利用してくれるか考える必要がある。いい方法はないか。

（事務局）今は、限られた客を、路線バス、あいあいバスで奪い合ってる状況だ。資料

にも示してあるが、供給過多となっている路線について、需要に見合ったように整理する必要がある。また、行政からも多額の補助が出ており、こうした状況を住民へPRしていくことも重要だ。

(三宅会長) 整理することは重要だが、路線バスにしても、あいあいバスにしても、通るところは通らなければならない。そのことも気にしながら整理するしかない。今後、高齢者の運転免許保有率が上がるとあるが、運転している高齢者についてもやはり不安はある。そのため、今回の連携計画への期待もあると考えているので、しっかりとした計画を策定していきたい。

(委員) あいあいバスの運賃を200円に上げるのは、議決案件となるのか。

(三宅会長) 条例で定めているものではないので、議決は不要だ。

(委員) バスの利用人数の把握だが、一部のバスでは特定の利用者がずっと乗っているような状況が見られ、それを利用者としてカウントするのは本来の利用者数が見えなくなるのではないか。こういった実情があることも踏まえてほしい。

(委員) 地域公共交通活性化・再生総合事業のよいところは、地域の公共交通を守っていくためにどうすべきかを推測し、実証運行等を行いながら、その推論を確かめるもので、さらに見直しながら、よりよいものをつくっていかうとするものだ。連携計画はそのスタートラインであり、今後の方向性を示すもので、これが大きくブレなければよい。

(事務局) 今後予定している意見交流会では、アンケートでは拾えなかった声を拾っていききたい。

(三宅会長) いろいろご意見をいただいたが、今回の資料で示してある方向性でよいか。

(三宅会長) よいとのことであるので、改善すべきところは改善しながら、この方向で進めさせてもらう。

3. 今後のスケジュールについて

・事務局から今後のスケジュールを説明

(三宅会長) 意見交換会では、委員の方に対しては、地域の方とのパイプ役になっていただければと考えているので、よろしくお願ひしたい。ここで、国の方の動向について、何か情報があれば教えていただきたい。

(委員) 国の動きであるが、交通基本法の制定に向けて動いており、パブコメでも多くの意見が寄せられた。来年1月には法案が提出される見込みだ。予算については、現時点では流動的だが、本省としても来年度予算に今年度の2.1倍の予算要求しており、現在、査定を受けている状況となっている。来年度は補助制度の形が変わることになるが、国としても支援を続けていきたい。公共交通では、サービスとコストの相関を考慮する必要があり、完全にタクシーのようなサービスでは財政が持たない。安くするために乗合のバスになるが、バスにはタクシーのサービスは無理である。限られた予算で、効率的・効果的なサービスを行うことが必要である。そのため、国もできるだけ支援をしていきたい。

また、住民に方にもぜひ参加してもらい、いっしょになって地域の公共交通を残していければよいと考えている。

(委員) 意見交換会だが、単位を三原とか共和とか、もう少し細かい地区にした方がよいのではないか。芳井地区で1つなら、代表者が集まっておざなりの会になってしまう。

(三宅会長) よりよい公共交通を残していこうといこうことで、3つの単位での開催することになっている。ただ、今後、細かいエリア毎に開催する必要があるかもしれないので、来年あたりに考えさせていただく。

(事務局) より細かい地区での意見交換会は、今後3年間の中でやっていきたい。意見交換会の資料については、これから精査していくが、事前に送りたいと考えている。

4. 閉 会

仁科副会長あいさつ